

2023, 3月25日オープンミーティングの報告

●2023.3.25.(土) 15:00-16:30

●zoom

●参加費 無料

●発表者

丸野萌子 平塚市立小学校教諭

●テーマ「初任校で哲学対話をやってみた」

●内容 初任者として赴任した小学校で、哲学対話を取り入れた道徳授業を行っています。P4C との出会いと、教員として子どもたちとの実践の中で感じた教室の変化、現在の悩みなどお話しします。当日は哲学対話を新学期から取り入れようと考えている方や、すでに実践をされている方と対話ができればと思います。是非ご参加ください。

参加者 一般参加 5名、運営委員 5名 計 10名

発表要旨

小学校2年生を担当。

●大学（立教大学）の河野ゼミでP4Cに出会う。自己分析をする上で、対話が大切だと実感した。

●P4Cを授業で取り入れようと思った理由

- ・ 小学生の素直な意見が、より話し合いを盛り上げると肌で感じたから。
- ・ 一人ひとりの参画感（主体性）を大切にできなかったから。
- ・ 人と折り合いをつけることを自分自身が学べなかったから。

●2年生との対話

ルールの確認：待つことが大事。

コミュニティボールを持っている人が話す

何を言ってもいい（人を不快にするものはだめ）

意見が変わってもいい

人の意見を否定しない

座席の工夫

① 防災頭巾だけ持って円になる

② 椅子で円になる

③ 椅子で円になる+はくして+白紙（自分の考えをまとめて書く）と鉛筆1本

ツール

- ・ コミュニティボール（もじゃもじゃ君という名前を作る。道徳の時間はもじゃもじ

やタイムと呼ぶようになる)

- ・ 質問カード (国語にも同じようなものを学ぶ)
- ・ グループ編成カード (様々なグループが簡単に作れるように工夫)

●学級の変化

- ・ 他教科での話し合いも活発になった
- ・ 作文することが上手くなった→言葉へのこだわりが出始める
- ・ 静寂の時間 (考える時間) を自然と作ることができるようになった

●課題

- ・ 道徳の指導案のあり方 (伝え方)
- ・ 系統性 (継続的にどのような力が身についていくのか)
- ・ 教科書の扱い方 (P4C を使ってできる授業、できない授業は?)

質疑応答 (Q&A)、コメント/感想 (C)

C: 初任の先生がここまでできるのかと感心させられました。

Q: P4C で授業をする場合、話せなかった子はいませんでしたか。話せないことに負い目や引け目を感じている子がいるのではないですか。また、そのような場合にはどういう対応を取られていますか。

A: クラスには確かに話せない子はいる。しかし、そういう子に限ってすごく考えているなと思っています。感想を見た時に、話せない子が長文で書いてきている場合がある。授業中ではなく、家で考えてきてもいい? という子がいる。学校ではなかなか話せないこともあると考えられる。家で話すだけでなく、放課後友だちと話すということもいいと思っています。自由帳というのがあり、そこに書いてきてもいいよ、とも子どもには伝えている。すると子どもは自分のペースで書いてくる子がいます。親との会話を録画してきてそれを提出する子もいる。負い目を感じている子はいるかもしれないが、それでもその子なりに工夫していると思っている。

C: 子どもたちがしっかり考えて、自分の意見を言えるようなクラスになっているんだろうなと感じました。今のお話を聞いて、P4C がこれからの社会にマッチしていくような気がしました。自分の中学校では周りに知っている人がいないので、やってみようと思った時に、どうしてもできない方のイメージを持ってしまって、なかなかやってみようという形で踏み切れない自分があったので、こうして自分なりに踏み出してみたいと感じています。

Q: 初任でやるということに、勇気が必要だったのでは? 周りの先生の理解などはどうでしたか。

A: 4 月の面談の時に校長先生からどういう授業をしたいのかを尋ねられた。P4C をしたいとは言ったけれど、6 クラスある学年で足並みを揃えなければいけないとも言われていた。しかし、6 クラスもあるので、他のクラスに関心を持つことはなかったというより、

他の先生から干渉された経験はなかった位に、自由に授業をさせてもらった。また、他の先生に理解していただくような雰囲気は作っていた。また、こんな新しいことをしている先生がいますよと学校の宣伝としても使われるという幸運があった。

C：せんせいのご発表を聞いてクラスの様子が想像できて、自分も改めて新学期から P4C をしてみたいなと思いました。

Q：授業は子どもたちの主体性を生かして行いたいと思っているが、教材研究の時に自分の意図が入ってしまう。どういう風に子どもの問いを引き出して行っているのでしょうか。

A：私も同じ悩みを持っています。問いをいきなり作るのはかなりむづかしい。自分が考えている方向に行かないなと思ってはいますが、子どもに感想を聞いていくうちに、キーワードが出てくる。それをうまく使っていく努力をしています。そうすると自然と問いが作られていくという経験をしました。教材研究で、こういう感想が出てくるだろうなっていうことを予想しながら、価値項目とすり合わせていく。どのようなキーワードを使っていくかは注意していたように思います。

C：大学のゼミで勉強してきた人が現場できちんとできていることがすごいなと感じました。時代を感じます。ちょっと感動しました。教師生活をしていて、何か行き詰まった感じの中で、たまたま P4C を知った自分からすると、新任の時から現場で生かしているのがすごいなと思いました。

Q：クラスの数人は？

A：30 人です。

Q：クラスの数人で、やり易いとかやり難いと感じたことはありますか。

A：3～4 人であれば、全ての子が活発に話しているけれど、7 人くらいになると、話さない子が出てくる

Q：P4C をしていて、やり易さややり難さの波はなかったですか。

A：テーマによってはあったかもしれない。自然とか歴史とかというテーマは自分的には難しかった。

C：聞いていて、先生が楽しんでいる様子が伝わってきた。学生時代から P4C に関わってきた人と、すでに教師になってこれから P4C を始める人との違いなのかなと感じた。